

談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていること、お書きになって気軽に寄ってください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇一〇二 白根市大字白根一三三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。



市民文芸

俳句

野仏の日よけに植えた大椿、
玉木 長吉
朝露を浴びし木の手の愛らしき
波辺 勲

川柳
実年の節目にあつた過去の傷
田村 恒夫
短命の蟬に遺書かく暇がない
長井 徳市
押し入れに義理のギフトが仮寝する
中村 尚治
誰とでも馴染む手袋白だるう
西条 ムラ
肩叩きそれから強請る手が恐い
野内熊太郎
ときめきが顔に出ている見合席
早川 英男
割り箸と縁が切れない独り者
山岡 フミ
栄転の内示に動悸おさまらず
吉川 彰
女系図に華麗に墜ちた蝶のシミ
吉川 末吉
混浴の女を遠くから見詰め
米野 光雄
素顔では笑えぬピエロの厚化粧
波辺 ミヨ
嫁がせてから晩酌が増えてくる
今井 七郎

消えゆくものへのなつかしさ

わらへ歌を集めたい

東樹友次さん(鎌漣一丁目73歳)

「すずめ すずめ 今日もまた さみしい山の山奥へ帰るのか いえあそこには 母さん父さん待っている 楽しいおうちがあるのです」
四代新発田藩主、溝口信濃守重雄公のころの記録によると、「ろう獄空しきこと数年」とあります。そのころの越後の国は大平天国そのもの、浄土であったと想像されます。
——鐘鳴るや 村法悦に 耕せる—— 田に畑に、道路に、

その当時のまりつき歌や、おはじき歌を集めたいと思いつつ、またたく間に十余年が過ぎました。消えゆくものへのなつかしさを、こんこんとわき出る哀愁、それを滴たすために毛まり歌



豊かさの中の子育て

困難を乗り越えられる人間に

小林ナヲさん(横町甲・63歳)

日本が経済大国になったおかげで住居もつばになり、食糧も衣類も豊富になりました。たいへんよい時代になって喜ばしいことだと思えます。
先日、妹が外孫二人を連れてきました。喜々として家の中を駆け回り、幸せそううれしく思いました。妹の話では、この家庭でもおもちやなど多く持ち、かなり高額のものもあって恵まれているそうです。
今は子供の数も少なく、欲しいものは相当高価なものでも、よその子供が持っているからと



「セッセッセーノヨイヨイヨイ」と遊んでいた子供たち(今年の4月、上塩後で)

心を通わなければならぬ」と話されてきました。正にそのとおりだと思っています。
これからはこの教えを肝に銘じ、心を通わすに徹してゆきたいと思っています。そしてすべてに感謝の気持ちで接し、二十数年ぶりで妻が毎日作ってくれる弁当に感謝し、少しでも皆さんの役に立つ、よい仕事をしたいと念じています。
キャンプファイヤー。特に流しそうめんは好評で、七、八杯の長さに青竹を組み、流れてくるそうめんを両側に立ち、すくって食べました。子供たちは、しばしすくうことに夢中になり歓声を上げていました。
家族だけでは味わうことのできない体験の連続でした。
スタッフの皆さん。どうもありがとうございました。次回のつどいを楽しみにしています。



すべてに感謝

目下一年生で勉強中

羽貝正直さん(上鷲ノ木・会社員・60歳)

「光陰矢の如し」と言うように、私も昨年十一月、定年退職し、今、ある会社にお世話になってます。そして目下一年生として勉強中です。
商売の難しさ、厳しさはある程度心得ていたものの、全く商品知識のなかった私は、これからいろいろ勉強しなければなりません。健康のためによかったと声援してくれる人もいます。
人それぞれ見方も違いますが、幸い私は、昔の職場の先輩や同僚の皆さん、いろいろご指導いただいた取引先の皆さんにお目にかかることができます。ときには昔話に花が咲き、あるときは他界された知人の話を聞いて

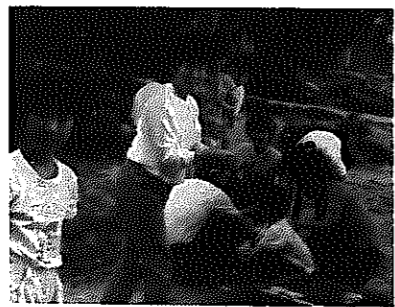
人生の無情を感じたり……。でも毎日楽しく、感謝の日々を送っています。
たまたま過日、花積正夫先生の講演を聴く機会があり、「商売は品物を売るだけではだめだ」

ファミリーキャンプに参加

スタッフの皆さんありがとう

長谷川節子さん(桜町三・主婦・33歳)

八月二十三日と二十四日、市レクリエーション協会の「親子で楽しむレクのつどい」ファミリーキャンプに参加し、二日間を五頭県民会館の森で楽しく過ごしました。
内容は、飯ごう炊き、キャ



このキャンプには14組32人の親子が参加

心を通わすに徹してゆきたいと思っています。そしてすべてに感謝の気持ちで接し、二十数年ぶりで妻が毎日作ってくれる弁当に感謝し、少しでも皆さんの役に立つ、よい仕事をしたいと念じています。
キャンプファイヤー。特に流しそうめんは好評で、七、八杯の長さに青竹を組み、流れてくるそうめんを両側に立ち、すくって食べました。子供たちは、しばしすくうことに夢中になり歓声を上げていました。
家族だけでは味わうことのできない体験の連続でした。
スタッフの皆さん。どうもありがとうございました。次回のつどいを楽しみにしています。

短歌

蝉しぐれいつしか消えて虫の音に
空高くして秋盛んなり
中村 京

グループ紹介③

日本棋院白根支部



毎週土曜日の定例碁会には20人ほどが集まる

若い人を育てていきたい

現在のこの会は、みんなでいっしょに碁を楽しもうと50人が集まり、6年前に日本棋院の認定を受けて白根支部として発足しました。現在の会員は、25歳から80歳までの幅広い年齢層の60人。「転勤などでやめる人がいるが徐々に増えている」と支部長の風間由由さんは話します。
実力の方は、約半数が段位を持ち、4段から5級の人までがいます。県内では、支部同士の力の差はあまりないそうです。風間支部長は「学生とかの若い人からもっと加入してもらい、指導していきたい。若い人はどんどん伸びます」と会員の増強を図っています。
会では毎週土曜日の定例碁会や支部大会の開催、県大会や他の支部との親善試合への派遣、プロ棋士などを招いての指導会、親睦を深める旅行などを行っています。また白根地区公民館主催の文化祭に開く「市長杯争奪市民囲碁大会」が11月23日に予定されています。一般の人からも多数参加してほしいとのことでした。

会員の声



山崎淳策さん(みの口・61歳)

毎週土曜日の碁会にはほとんど来ていますよ。昨年の10月に定年退職し、新潟市から引っ越してきました。その後すぐに文化祭の碁大会に参加し、支部にも入りました。新潟の町の碁会と違い、ここは有段者とも打てるので非常に勉強になります。碁は、どんな窮地に陥っても最後まであきらめずやれる。これは人生にもつながるのではないのでしょうか。